

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02956

研究課題名(和文)小中高大連携を見据えた外国語教育とICTの接点を探る研究ならびにアーカイブの開発

研究課題名(英文)An Investigation and Practice Archive Exploring the Interface between Foreign Language Education and ICT with a View to Collaboration from Elementary School to University

研究代表者

神谷 健一 (KAMIYA, Kenichi)

大阪工業大学・知的財産学部・准教授

研究者番号：50388352

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：2019年3月24日にはFLEXICT Expo 2018を、2020年2月23日にはFLEXICT Expo 2019をそれぞれ開催した。2020年初頭に新型コロナウイルスによるパンデミックが発生したことにより、一気に授業のオンライン化が求められることになった。折しも研究代表者が監訳者を務めたオンライン書籍の翻訳版『デジタル時代の教育 教育と学習をデザインするための指針』の公開は時機を得たものとなった。また、2020年7月26日に開催したFLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウムでは、資料に加え、一部の発表動画もアーカイブできている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで教育実践者の暗黙的な知見を記述し、教育活動の見せる化・見える化を行うことを目指した研究は研究代表者らの知る限りでは存在しなかった。アーカイブするためにはイベントの開催が最も容易な手段であると考えたため、本研究課題では種々の実践事例を口頭発表していただき、その発表予稿集をWeb上で公開し続けるという手法を選択した。アーカイブの対象としたものは外国語教育、ICT、Active Learning、Classroom Tipsのうち、各発表者の判断で2項目以上に当たるものとした。

研究成果の概要(英文)：FLEXICT Expo 2018 and FLEXICT Expo 2019 were held on March 24, 2019 and February 23, 2020, respectively. The pandemic caused by the new coronavirus in early 2020 has led to the need for classrooms to go online at once. The release of the translated version of the online book "Teaching in a Digital Age" for which the principal investigator served as a supervisor, was timely. In addition, FLEXICT Expo 2020 Emergency Symposium held on July 26, 2020, has archived some of the presentation videos in addition to the materials.

研究分野：外国語教育

キーワード：外国語教育 ICT Active Learning Classroom Tips

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

従来、研究成果のアーカイブは学会が担うことが多かった。しかし学会という組織はとりわけ小中高の先生方には敷居が高すぎることから、参加はもとより様々な工夫(実践事例)をアーカイブする機会すらなかった。小中高大連携の必要性が取り沙汰される昨今、まずはこの敷居を下げる工夫こそ最優先の課題であった。外国語教育における ICT 利用は他の学問領域と比べても小中高大連携が行いやすく、なおかつアーカイブしやすいと考えた。

2016年9月4日、本研究の直接的なきっかけとなった FLExICT Conference (ICT を活用した外国語教育の最前線を知るカンファレンス) が別の科研プロジェクトによって開催されたが、このイベントへの参加者は当初の想定以上に多かった。この理由として考えられるのは、外国語教育に活用することができるソフトウェアや e-learning ツール類、タブレット端末やスマートフォン等のモバイルデバイス用アプリ、電子語学教材など(デジタル教具と略称)の利用が外国語教育関係者の間には未だ十分に普及していないのではないかと考えられた。

デジタルネイティブ世代は今や大学生にまで拡大している。そしてデジタル教具の授業での利活用も当時でさえ、かなり増えてきている印象があった。必ずしも直接的な利用ではないのかもしれないが、何らかの形でデジタル教具の恩恵による教育を受けてきた学習者と、デジタル教具に関心がありながらもこれらを自らの教育活動にどのように取り入れたら良いのかという点において経験不足な外国語教員との間の溝は容易に埋まることがない。そしてデジタル教具の利用方法において、時には生徒や学生の方が詳しいという事実に焦りを感じている外国語教員も少なくないように思われた。自身の教育実践へのデジタル教具導入に踏み切ろうにも、これまでの具体的なノウハウ、すなわちデジタル教具利用型授業を実践する者自身による授業実践の記述が不十分であったがために、これらについて知る機会がなかなかないという状況のまま、いざ踏ん切りがつかないという外国語教員も、多数存在すると考えられた。

残念なことにデジタル教具の利用に関する研究は、どちらかと言えば学習者支援型(学習者の成績がどれだけ伸びたかを測定する)のものに偏りがちであるという傾向があった。しかし学習者の成績の伸びを担保するのは日々の教員の努力である。研究代表者が同様に研究代表者を務めた別の研究課題 <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24520675/> では特に教員支援型のデジタル教具に焦点を当てた研究を行ったが、我々の経験知では適切なデジタル教具を、適切な場面で利用するだけで教室の雰囲気は全く異なったものになる。従来型のデジタル教具の利用に関する研究ではこのダイナミズムの変化が全く無視されていたと言っても過言ではないと考えられた。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは主に3言語(英語・中国語・ドイツ語)の教育に携わる総勢12名(研究代表者・研究分担者のみ)による共同研究であった。第1の目的は2016年9月4日に開催し、大好評を博した FLExICT Conference (ICT を活用した外国語教育の最前線を知るカンファレンス)の継続実施であったが、第2の目的としてこれまで開発されながらも散逸しがちであった外国語教育支援のためのアプリ・ソフト類についてのアーカイブ開発についても同時に目指すものであった。さらに第3の目的として主に小中高大の各学校における外国語教育で必要とされるツール類についての調査を行いながら、必要に応じて新規の開発も進めていった。

3. 研究の方法

アーカイブするためにはイベントの開催が最も容易な手段であると考えたため、本研究課題では種々の実践事例を口頭発表していただき、その発表予稿集を Web 上で公開し続けるという手法を選択した。

教育実践者の暗黙的な知見を記述し、教育活動の見せる化・見える化を行うことを目指す必要があったが、アーカイブの対象としたものは外国語教育、ICT、Active Learning、Classroom Tips のうち、各発表者の判断で2項目以上に当たるものとした。

4. 研究成果

本研究は上述のとおり、別の科研プロジェクト <https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-26370680/> の一部として2016年9月4日に実施した FLExICT (外国語教育 x ICT) Conference 2016 の継続的な実施を計画して始まったイベントであった。本研究課題の充足率が低めであったため、2017年度は開催できなかったことが悔やまれるが、2019年3月24日には FLExICT Expo 2018 <https://flexict-expo-2018.jimdosite.com> を、2020年2月23日には FLExICT Expo 2019 <https://flexict-expo-2019.jimdofree.com> をそれぞれ開催することができた。

しかしこの2020年初頭に新型コロナウイルスによるパンデミックが発生したことにより、一気に授業のオンライン化が求められることになった。以後、一気に外国語教員のデジタル教具操作スキルもかなり向上することとなったようにも思われるが、折しも研究代表者が監訳者を務めたオンライン書籍の翻訳版『デジタル時代の教育 教育と学習をデザインするための指針』<https://pressbooks.bccampus.ca/teachinginadigitalagejpn/> の公開は時機を得たものとなった。

また、2020年7月26日に開催した FLExICT Expo 2020 緊急シンポジウム <https://flexict-expo-2020.jimdofree.com> では、資料に加え、一部の発表動画もアーカイブできている。数え方にもよるが、3年間のイベント開催により100件弱の実践事例をアーカイブすることができた。

なお、本研究では実践事例アーカイブが目的という性質上、多くの研究協力者の方々のご協力を賜った。本来、研究協力者はWeb入力すべきではあるが、あまりにも人数が多い。そのため敬称略で以下に記すことで入力に代えるものとした。

研究協力者（順不同）

反田 任、神澤 克徳、中村 紘子、住ノ江 修、角南 北斗、渡邊 ゆきこ、中村 孝一、漁野 岬、寺尾 美登里、柿原 武史、Doug Strable、Roland van Oostveen、楊 彩虹、清水 賢一郎、田邊 鉄、杉江 聡子、堂浦 律子、井上 昭彦、川口 陽子、黒田 恵梨子、有田 豊、三浦 由香利、山本 有希、阪上 辰也、成田 修司、越智 景子、溝畑 保之、浦野 研、岩根 久、平野 貴美枝、鈴木 のぶみ、真島 由朱、朝倉 民枝、柳 素子、紅粉 芳恵、須藤 正彦、小渡 悟、板垣 静香、縄田 登紀子、村上 裕美、中西 淳、山内 真理、田中 洋也、David Wingle、正頭 英和、江藤 由布、加野 まきみ、小埜 功貴、白 焔、岡本 清美

FLExICT Expo 共催団体・協賛企業など（科研による共催を除く、順不同）

大学英語教育学会関西支部教材開発研究会、外国語教育メディア学会関西支部電子語学教材開発研究部会、大阪工業大学 デジタル教育開発センター デジタル教材開発プロジェクト "Smart Learning Lab"、NPO 法人 eboard、一般社団法人 センセイワーク、FF English、e-Learning 教育学会、大阪工業大学 OIT 梅田タワー、株式会社アルク、株式会社教育測定研究所、ジョイズ株式会社、iJapan 株式会社、株式会社内田洋行

『デジタル時代の教育 教育と学習をデザインするための指針』

翻訳者（上記と重複する方々を除く、順不同）

吉永 一行、藤永 史尚、浅田 義和、長岡 千香子、喜多 敏博、平岡 斉士、大澤 真也

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Watanabe Yukiko, Omae Tomomi, Odo Satoru	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 Investigating the Effect of Chinese Pronunciation Teaching Materials Using Speech Recognition and Synthesis Functions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Technology and Chinese Language Teaching	6. 最初と最後の頁 102-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊ゆきこ・大前智美	4. 巻 2019
2. 論文標題 中国語音韻検索システムの開発と 音声認識機能を使った効率的発音学習の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019PC Conference 論文集	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川口陽子・黒田恵梨子・有田豊・神谷健一	4. 巻 33
2. 論文標題 授業外での学習支援をめざしたフランス語学習アプリ開発の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RENCONTRES	6. 最初と最後の頁 22-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田原憲和	4. 巻 12
2. 論文標題 再履修クラスにおける復習用動画の活用と学習行動への影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 e-Learning教育研究	6. 最初と最後の頁 13~22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20623/well.12.0_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計91件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 神谷健一
2. 発表標題 「デジタル時代の教育」読みどころ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村修平
2. 発表標題 LMSダウンの危機を救ったSlackという名の箱舟 チャット型コミュニケーションの教育活用を考える
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩居弘樹
2. 発表標題 学生を孤立させないために -Zoom (Breakout Room), Remo, Loilonote School, LINE Open Chat & Flipgrid のあわせ技
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤雪絵
2. 発表標題 「Web授業」でアクティブラーニング型ワークショップを行うためのツール適材適所：LMSとしてのSlack+OneDrive, Google Drive, Zoom, 学内LMSのあわせ技
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野貴美枝
2. 発表標題 ファシリテーションいらずのオンラインツール -HousepartyとPragli-
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水野善寛
2. 発表標題 簡単に教材を作成・シェア おひとり様の外国語学習をサポートする「Ondoku Chinese」
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢野浩二郎
2. 発表標題 VR 技術を用いたオンラインライブ授業
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 榎田一路
2. 発表標題 Podcast 開発経験を生かしたオンデマンド型教材の作成
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語オンライン授業のためのリソース
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 榎田一路
2. 発表標題 グループワーク支援ツールとしてのMicrosoft Excel
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩居弘樹
2. 発表標題 ZOOM + Loilonote School + 留学生 ~遠隔だからできる小学校複言語学習の試み~
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤雪絵
2. 発表標題 リードするのは学生、デザインするのは教員 ミーティングスタイル・クラスルームにおけるLMSとしてのSlack活用術
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本有希・三浦由香利・神谷健一
2. 発表標題 格変化学習アプリの開発と実践および形容詞変化提示アプリの開発
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森真幸・神澤克徳
2. 発表標題 IBT英語ライティングテストを公平・公正に実施するためのシステム環境の構築
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神谷健一
2. 発表標題 TOEICリスニングクラスにおける「授業の複線化」の試みと科目内ラーニング・ポートフォリオ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 アクセシビリティ機能は外国語学習にも役立つ Office365のOneNoteの合成音声による読み上げ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 iPhone・iPadの中国語入力を設定する
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 Android 9/10の中国語入力を設定する
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 iOS13/iPad13の合成音声読み上げ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 iOS13/iPadOS13の内蔵辞書
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 iPhone・iPadで使う中国語辞書アプリ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 中国語教員のためのICT活用術入門 機械翻訳サービス
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 アクセシビリティ機能は外国語学習にも役立つ Office365のWordの合成音声による読み上げ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 アクセシビリティ機能は外国語学習にも役立つ Office365のPowerPointの自動字幕
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川口陽子・黒田恵梨子・有田豊・神谷健一
2. 発表標題 『動詞変化形提示ツール』と『単語例文学習アプリ』の応用実践例
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大前智美・渡邊ゆきこ
2. 発表標題 多言語発音練習ソフトST labのワークショップ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中西淳・山内真理・神谷健一
2. 発表標題 四択問題作成ツールを用いたKahoot!対応データの出力
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田原憲和
2. 発表標題 Quizlet Liveで単語テストを盛り上げる
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堂浦律子・井上昭彦・神谷健一
2. 発表標題 『文変形提示ツール』を活用したイタリア語の授業の実践
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水野善寛
2. 発表標題 ログインなしでファイルを提出 簡易LMSの提案
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村修平
2. 発表標題 G Suite for Educationを用いた英語教員支援Webアプリ3種の開発と実践
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢野浩二郎
2. 発表標題 一斉授業におけるVR（仮想現実）の活用：課題と展望
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齊藤公輔
2. 発表標題 OneNote Class Notebookの可能性
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 合理的配慮に有用なツールは外国語学習にも役立つ
3. 学会等名 外国語教育メディア学会(LET) 関西支部 2019 年度秋季研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神谷健一
2. 発表標題 Google翻訳の外国語教材作成への応用：フレーズ訳の作成を中心に
3. 学会等名 外国語教育メディア学会関西支部春季研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenichi Kamiya
2. 発表標題 Preparing 2-Column Data for Phrase Reading Worksheet Builder Assisting with Google Translate
3. 学会等名 FLEAT 7 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦由香利・山本友希・神谷健一
2. 発表標題 ロシア語版動詞活用学習アプリ(VCS)の開発と実践
3. 学会等名 日本ロシア語教育研究会 教育研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中西淳・神谷健一・山内真理
2. 発表標題 スマートフォンを用いた英単語学習の検討 GoogleFormとKahoot!を組み合わせた授業実践をふまえて
3. 学会等名 e-Learning教育学会第18回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 神谷健一
2. 発表標題 フラッシュ型 例文・対訳提示ツールの開発と実践利用
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森真幸・神澤克徳
2. 発表標題 入試に利用できるCBT英語スピーキングテストの環境構築と運営
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水野善寛
2. 発表標題 中国語教育における中国語の分割システム
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大前智美・渡邊ゆきこ
2. 発表標題 発話を促す多言語教材の開発
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩居弘樹
2. 発表標題 Flipgridでビデオ交流
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清原文代
2. 発表標題 ランチョンセミナー『外国語教育におけるICTの活用 -スマートフォンを中心に-』
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村修平
2. 発表標題 CALLからCILLへ -BYODを組み込んだプロジェクト型英語教育-
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤雪絵
2. 発表標題 リードするのは学生、デザインするのは教員。 -ミーティングスタイル・クラスルームにおけるアジェンダ活用術-
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎田一路
2. 発表標題 広島大学発英語学習用Podcastの10年を振り返る
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田原憲和
2. 発表標題 EDpuzzle活用法
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤公輔
2. 発表標題 マインドマップ de ポートフォリオ
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢野浩二郎
2. 発表標題 モバイルVR (バーチャルリアリティ、仮想現実) ヘッドセットを用いた授業動画作成
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田原憲和
2. 発表標題 2人の障害学生とその対応について
3. 学会等名 外国語授業実践フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 KAMIYA, Kenichi / Kim, Sunmi
2. 発表標題 Using Database Software for Flashcard Presenting
3. 学会等名 GLoCALL 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 反田任
2. 発表標題 生徒が主体的に学べる学習環境を目指した同志社中学校の取り組みと教育ICT
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村紘子
2. 発表標題 大学英語授業におけるスマホの実践的な活用法
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 住ノ江修
2. 発表標題 プロジェクション・マッピングが拓く未来 <地域創生と教育改革のツールとして>
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 角南北斗
2. 発表標題 Googleフォームで学習者のアクティブな参加を促す
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 漁野岬
2. 発表標題 学びをあきらめない社会の実現に向けて eboardの取り組み事例紹介
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 寺尾美登里・柿原武史・神谷健一
2. 発表標題 スペイン語 応答パターン提示ツールの開発と運用に向けて
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Doug Strable, Roland van Oostveen
2. 発表標題 デジタル時代における教授法と教員の役割
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 楊彩虹・清水賢一郎・田邊鉄・杉江聡子
2. 発表標題 北海道大学キャンパスガイドを題材とした世代間国際交流による協働学習の実践
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堂浦律子・神谷健一・井上昭彦・川口陽子・黒田恵梨子・有田豊・三浦由香利・山本有希
2. 発表標題 単語例文学習アプリの開発と実践
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阪上辰也
2. 発表標題 広島大学における英語語彙学習の取り組み オンライン単語学習「HiroTan」を中心に
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成田修司
2. 発表標題 トランプを使った討論活性化と評価
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 越智景子
2. 発表標題 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tipsの融合と小中高大生涯教育の連携 小学校の視点から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝畑保之
2. 発表標題 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tipsの融合と小中高生涯教育の連携 高等学校の視点から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浦野研
2. 発表標題 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tipsの融合と小中高生涯教育の連携 大学英語の視点から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩根久
2. 発表標題 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tipsの融合と小中高生涯教育の連携 大学初習外国語の視点から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平野貴美枝
2. 発表標題 外国語教育・ICT・Active Learning・Classroom Tipsの融合と小中高生涯教育の連携 生涯学習の視点から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木のぶみ
2. 発表標題 QAの練習を通じた冗長でない合理的な応答の学習
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真島由朱
2. 発表標題 B6の白紙を用いた追加活動の紹介
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朝倉民枝
2. 発表標題 ICTを活用したオープンエンドな物語づくり
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳素子
2. 発表標題 高校中国語教育におけるICT活用 異なるバックグラウンドの生徒による協働学習
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 紅粉芳恵
2. 発表標題 Keynoteで多言語動作動詞辞書を作ろう！！
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 住ノ江修
2. 発表標題 学校ICTによるプロジェクションマッピングの可能性
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小渡悟
2. 発表標題 xR（VR（実質現実）・AR（拡張現実））を活用した語学教育教材の開発
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊彩虹・杉江聡子・清水賢一郎・田邊鉄
2. 発表標題 インバウンド接客場面でAI活用の可能性とコミュニケーション方略 中華圏観光客の場合
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板垣静香・縄田登紀子
2. 発表標題 特別支援学校におけるICTを使用した英語活動について
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村上裕美
2. 発表標題 学生のpuzzlingから生まれる指導法 Motivation graphの活用
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 反田任
2. 発表標題 STEMを意識した授業デザインを考える
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阪上辰也
2. 発表標題 英語学習支援のためのMaharaプラグイン開発
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中洋也
2. 発表標題 Google Sitesを用いた授業運営と学生eポートフォリオ作成の取り組み
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 David Wingler
2. 発表標題 iOS Apps and Strategies for Language Learning from Elementary through HS
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 真島由朱
2. 発表標題 公立高校における授業の「+ 教材」としてのICT使用例
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 正頭英和
2. 発表標題 EdTech時代の学び方～知識から体験へ～
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 江藤由布
2. 発表標題 自己実現を促進するツールとしての外国語とICT
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加野まきみ
2. 発表標題 多読学習の可能性とMReaderを使った効果的な学習プログラムについて
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小埜功貴
2. 発表標題 若手教育者ならではの強み -学習管理アプリStudyplusを用いた先生と生徒の共走-
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白焔
2. 発表標題 第二外国語としての中国語教育における「自己表現プロジェクト」
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2019
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本清美
2. 発表標題 新型コロナ休講で、大学教員は何をすべきかについて知恵と情報を共有するグループ(Facebook)での議論から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山内真理
2. 発表標題 遠隔授業におけるツール選択と同期/非同期モードの学習活動について: 授業者・コーディネーターの立場から
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村孝一
2. 発表標題 afterコロナから考える2025年の教育ICT活用
3. 学会等名 FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 A.W. (Tony) Bates (原著) 神谷健一 (監訳) 木村修平ほか12名 (共訳)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 https://pressbooks.bccampus.ca/teachinginadigitalagejpn/ (BC Campus オンライン教科書)	5. 総ページ数 669
3. 書名 デジタル時代の教育 教育と学習をデザインするための指針	

1. 著者名 神谷健一（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 自費出版・オンライン出版 (https://flexict-expo-2019.jimdofree.com)	5. 総ページ数 171
3. 書名 FLEXICT Expo 2019 発表予稿集	

1. 著者名 神谷健一（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 自費出版・オンライン出版 (https://flexict-expo-2018.jimdosite.com)	5. 総ページ数 193
3. 書名 FLEXICT Expo 2018 発表予稿集	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>FLEXICT Expo 2020 緊急シンポジウム https://flexict-expo-2020.jimdofree.com FLEXICT Expo 2019 https://flexict-expo-2019.jimdofree.com デジタル時代の教育 教育と学習をデザインするための指針 https://pressbooks.bccampus.ca/teachinginadigitalagejpn/ FLEXICT Expo 2018 https://flexict-expo-2018.jimdosite.com 大阪工業大学 神谷健一 http://www.oit.ac.jp/ip/~kamiya/</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	木村 修平 (Kimura Shuhei) (20589709)	立命館大学・生命科学部・准教授 (34315)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 雪絵 (Kondo Yukie) (30722251)	立命館大学・薬学部・准教授 (34315)	
研究分担者	榎田 一路 (Enokida Kazumichi) (20268668)	広島大学・外国語教育研究センター・准教授 (15401)	
研究分担者	岩居 弘樹 (Iwai Hiroki) (20213267)	大阪大学・サイバーメディアセンター・教授 (14401)	
研究分担者	田原 憲和 (Tahara Norikazu) (80464593)	立命館大学・法学部・教授 (34315)	
研究分担者	齊藤 公輔 (Saito Kosuke) (90532648)	中京大学・国際教養学部・准教授 (33908)	
研究分担者	大前 智美 (Omae Tomomi) (00379108)	大阪大学・サイバーメディアセンター・准教授 (14401)	
研究分担者	清原 文代 (Kiyohara Fumiyo) (90305607)	大阪府立大学・高等教育推進機構・教授 (24403)	
研究分担者	氷野 善寛 (Hino Yoshihiro) (80512706)	目白大学・外国語学部・准教授 (32414)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢野 浩二郎 (Yaho Kojiro) (10612442)	大阪工業大学・情報科学部・准教授 (34406)	
研究分担者	森 真幸 (Mori Masayuki) (90528267)	京都工芸繊維大学・情報工学・人間科学系・助教 (14303)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関